

## 特集

岐阜大学が目指すべき  
「アクティブ・ラーニング」のかたちとは？

**岐** 阜大学では、学生の主体的・能動的な学習への参加を取り入れた「アクティブ・ラーニング」を目標に掲げ、様々な取り組みを行っています。2018年10月31日(水)に全学共通教育棟コモンズ教室にて、学修支援部門主催 FD・SD講習会が開催されました。

地域科学部 野原仁教授からは、「講義形式の授業で学生をどうアクティベートするか？」について、地域協学センター 今永典秀特任助教・松林康博特任助教から「ラーニングマネジメントシステムを活用した時間外学習」について、ご講演を頂きました。



ご講演の様子 野原仁教授

講義は学生と教員とのコミュニケーションによってつくられるものであるという考え方や、学生らの意欲を高めるための柔軟なアプローチ法を学びました。その後、学生間での意見交換会も開かれ、アカデミック・コア学生スタッフもアクティブ・ラーニングについて意見を交わしました。

「学び」に対する興味や楽しさが、いつどのように起こっているのかについても考えを深めることができました。

先生方の実践的な講演内容や  
学生による 積極的な討論は、  
有意義なものとなりました！



コア子

# 先生方のお声

岐阜大学地域協学センター 今永典秀氏、松林康博氏（お二方とも特任助教）

## 「AIMS-Gifu」を活用したアクティブ・ラーニングの促進について

私たちが担当する科目「自己省察と将来のキャリア設計」では、あらかじめAIMS-Gifuの中で受講生をグループに分け、それらのメンバー同士が一学期間を通してAIMS-Gifuの中で議論を展開していく活動を取り入れています。

具体的には、1学期の間に3回程度レポートをアップしてもらいます。それぞれの受講生は、授業時間以外の時間にそれらを読んで自由に意見を書き込みます。AIMS-Gifuがなかった時代の大学では同じ授業を受けている他の学生のレポートを見る機会などなかったわけですから、AIMS-Gifuを活用したこうした試みは、レポートの書き方はもちろん、他の受講生が授業をどのように受け止めたか迄を知ることができる画期的なものであると自負しています。

もちろん教員もすべてのレポートに目を通して適宜コメントしていきます。自分、他の受講生、そして教員。これら三者が、AIMS-Gifuすなわち授業時間とは別の空間でじっくりと議論を深めることで、次回以降の授業時間がより充実したものとなっていきます。なお、レポートをアップすることや、他の受講生のレポートを読んでコメントを付けることはいずれも成績評価の一部としています。

学生は、他の受講生の考えから学び、さらに自己への省察を深めていける点で、この取り組みをととても有益だと感じているようです。実際ほぼ全員の受講生が楽しそうに相互コメントを実施しており、これに参加しない者は皆無ですし、このやりとりのおかげで講義内でのグループワークがより深い内容になると考えています。

つまりはAIMS-Gifuをうまく活用することで、授業時間外の学習時間をちゃんと満たすことができ、かつそれは授業時間内に講義を聞く姿勢をもより主体的なものにできるのです。また、教員にとっても学生に講義の意図が伝わったかどうかを的確に把握することができるため、授業の計画から改善へと続くPDCAサイクルをこまめに、かつ迅速に回すことが可能となります。



ご講演の様子

今永典秀 特任助教



松林康博 特任助教

Q1. アクティブ・ラーニング科目は座学講義と対比されることがありますが、両者の違いについてどのように考えますか。

●実はそんなに大きな違いはないんじゃないかと思います。座学の方がよりアクティブであるということもあると思います。結局は自分にとってどれだけ興味のある科目かという学生個人のさじ加減になっているのではないのでしょうか。

●アクティブ・ラーニング科目は能動的な講義参加を強制するため、参加者の能動的な態度は表に出やすい。座学科目は基本受動的になりやすく、能動的に取り組んでいる人が表に出にくい。つまり“形式に態度が左右されているという違い以上は分からない”という意見です。

●受動的に知識を吸収する座学形式の講義に比べて、アクティブ・ラーニング科目では教員や学生との意見交換が盛んに行われるが多く自分の考えを持ちながら講義に参加することができるので、より能動的であると考えます。

Q2. 「学び」の楽しさを感じる時にについて学生間でディスカッションがありました。知的好奇心が喚起されるのはどのようなシチュエーションですか。

●僕にとって一番は自分の持っている知識を意図的に結びつけられたときです。自分にとって身につけている基礎知識をうまく応用できたときはすごくテンションが上がり、勉強のモチベーションが上がります。偶然結び付いたときや人からその結びつきを教えてもらったときもちろん楽しいという感覚はありますが、やはり一番は自分の力で結びつけられたときに楽しさを感じます。今の自分にとっての勉強は多くが研究に関わることなので、同一分野内での学びが多くなりますが、異分野同士での結びつきにも同様に感じるとは思います。

●知識を実践に活用できた時です。例えば数学のベクトルを使って3Dシミュレーションを計算機内に組み込む事で、現実では不可能な回数・パラメーターの思考を短時間に完遂できるため非常に有意義で楽しいと感じます。また、異なる領域の知識が繋がった場合、数学の領域間では特によくあるが、抽象数学とプログラミングの間にもあり、これを捉えられると視野が広がり面白いです。

●自分の持っている知識が、異なる分野へつながっていると感じるときです。学べば学ぶほど、知識のつながりを感じる機会は増えますし、その楽しさが学問の魅力であると考えます。

Q3. 学生の立場として、今後の大学教育に求めるアクティブ・ラーニングについて教えてください。

●あまり大学教育においてアクティブ・ラーニングに求めることはありません。「やりたくてやっているわけではない。単位のために仕方なくやっている。」そんな環境で主体的に何かを考えるのはなかなか難しいと思います。大学教育に求めるというよりは、大学の中で学生が主体的に取り組むための環境があるという状況を望みます。

●アクティブ・ラーニングは個人の意志なので能動的に動く意志のある人は他人がお膳立てしなくてもアクティブ・ラーニングできると考えます。「アクティブ・ラーニングこそが有意義な大学生活だ」という風潮が全国的に流れる世の中になれば、その意志のもと、動く人は増えそうだと考えます。

●教員から何かしらのフィードバックをしたり学生間で意見交換をしたりする機会を意識的に増やすべきだと思います。それにより、学生の学びや思考が深まれば、アクティブ・ラーニングにつながっていくのではないかと思います。

## 平成30年度第1回 学修支援部門FD・SD

平成30年9月26日（水）13時より図書館1階アカデミック・コアにて、「教職員向けAIMS講習会」を開催いたしました。本講習会は昨年9月にAIMS-Gifuのシステムが変更されたことを受け、アカデミック・コア学生スタッフの小山凌太さんと道下幹也さんが講師として、教職員の方々に操作方法などを実際のAIMS-Gifuの画面とスライドを用いて講習会を行いました。

内容として、AIMSヘルプデスクに寄せられた質問から、課題やクイズ、成績などを中心に進めていきました。参加いただいた教員から、AIMS独特の言い回しがあり、そこがわかりづらいとのご意見をいただき、次回は用語の解説なども加えていく予定です。また、熱心にお聞きいただけ、講師の2人もやりがいを感じており、貴重な2時間でした。AIMS-Gifuの操作について、まだまだお伝えしきれていないところも多々あるため、定期的に関催していきたいと思っております。

第1回 岐阜大学教育推進・学生支援機構 学修支援部門主催 FD・SD

### 教職員向けAIMS講習会

平成30年  
**9/26(水)**  
13:00~15:00

場所：岐阜大学図書館1階  
アカデミック・コア  
講師：アカデミック・コア学生スタッフ  
小山凌太、道下幹也  
(員高科学技術研究科2年)

～内容～

課題・クイズ・成績を中心に説明

- ・ノートパソコンを持参していただくと実際に手を動かしながら参加できます
- ・学生スタッフが説明させていただくため、至らぬ点などあるかと思いますがご了承ください

～創造的学習広場～  
岐阜大学アカデミック・コア  
岐阜大学図書館1階南側





講習会の様子

講座で使用したスライドは「AIMS-Gifu」 - コース「AIMSヘルプデスク」 - モジュール「AIMS講習会資料」からご覧いただけます。

募集中!

## 第4回 岐阜大学 学生レポートコンテスト

主催：岐阜大学 教育推進・学生支援機構 学修支援部門

第4回  
岐阜大学  
学生レポートコンテスト

あなたのレポートを、優れたレポートのお手本として、後輩たちに伝えてみませんか!

平成31年 2月8日(金)  
午後5時 締切

募集要項

応募資格	岐阜大学の学部生を対象とします。
募集作品	学外に未発表のもの。テーマは自由。授業で提出したレポートでもOK! 個人・グループのいずれでも応募可。 筆頭著者として応募できるのは1本のみ。分量は裏面参照。 日本語で執筆したものに限りま。
表彰	最優秀賞、優秀賞、佳作 <b>豪華副賞あり!</b>
提出先	全学共通教育事務局 (sszengas@gifu-u.ac.jp) ※必ず応募者本人から提出願います。教職員等による代行提出は認められません。

※入賞作品の著作権は岐阜大学に帰属するものとし、入賞者と入賞作品は『岐阜大学教育推進・学生支援機構年報』に掲載するなどして学内外に広く公開します。  
※詳しくは、裏面とCampus-Gをご覧ください。

お問い合わせ

主催：岐阜大学 教育推進・学生支援機構 学修支援部門  
担当：奥内大輔  
メール：hiteuchi@gifu-u.ac.jp  
電話：058-293-3097 (直通)

皆さまへ、"岐阜大学学生レポートコンテスト"って知ってますか?

岐阜大学学生レポートコンテストは、

- ①優れたレポートおよびその作者を顕彰することで学生の意欲的な学びを奨励する
- ②優れたレポートを公開することで他の学生がお手本とすることができる教材を蓄積・提供する

ことを目的に、平成27年度から毎年実施されているんですよ。

今年で4回目!  
どんなレポートが集まるかな。



コア子

入賞者と入賞作品は、『岐阜大学教育推進・学生支援機構年報』に掲載するなどして学内外に広く公開されています。

募集作品は、大学の外に未発表のものであれば、**どんなテーマでも構いません。**  
"授業で作成し既に提出したレポート"でも応募できます。  
(※分量はA4サイズの内紙で8ページ以内です。余白等の設定は細かく指定してません。)

### 【応募資格】

1. 岐阜大学の学部生(1~6年生)であること。
2. 個人(単著)・グループ(共著)の別は問わない。  
※グループで応募する場合は、原則として共著者もすべて岐阜大学の学部生であること。  
※例外として、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜やCOC関連の授業など、協定校にも開かれている科目で作成したレポートで応募する場合、協定校の受講生を第二著者以下に含むことは認める。
3. 筆頭著者として応募できるのは学部生一人につき1本とする。



右の写真は  
第3回学生レポートコンテスト表彰式です。

3名の受賞者に表彰状と副賞が  
授与されました。



応募締め切りは  
2019年2月8日(金) 午後5時まで

## アカデミック・コア 学生スタッフのオリジナルイベント企画 「かんたん爬虫類講座～爬虫類、お好きですか？ その魅力、お伝えします～」

アカデミック・コアの学生スタッフとして活動されている応用生物科学部2年の平塚諒大さんが平成30年5月23日に自ら企画して行った「かんたん爬虫類講座」について語ってくれました。

『爬虫類は苦手、気持ち悪い』そんな先入観を持った方は少なくないと思います。しかし、**彼ら**を深く知ると**とても魅力的な生き物**であることが分かります。そんな魅力をお伝えしたい！爬虫類を好きになってほしい！という考えでこの企画を行いました。

岐阜に住む爬虫類たちの紹介から始まり、爬虫類の知られざる生態・社会貢献までお話しさせていただきました。イベント内では、**空飛ぶヘビ**や**横向きに歩くヘビ**などについて紹介させていただきました。（面白いな・気になると思った方は、「パラダイストビヘビ」「ヨコバイガラガラヘビ」で検索してみてください。きっと驚くと思います。）

最後に、少しお願いがあります。爬虫類はとても魅力的な動物ですが、実際に、昨年もマムシによる被害が岐阜大学内でも数件報告されているそうです。種類を判別できない時はみかけてもそっとしておきましょう。また、爬虫類は非常に臆病な生き物ですので、観察する際も彼らにストレスをかけないようにしてあげてください。



イベントで爬虫類について熱く語る平塚さん

### 後期アカデミック・コア オリジナルイベント企画

#### 11月

『日本語と似ているような  
似ていないような中国語』  
『Network Programming in Python』  
『力学の公式導出』  
『機械学習のためのNVIDIA Docker』  
『無機化学&量子化学 勉強会 第1弾』  
『「ちょっと気になる」を深めよう!』

#### 12月

『第2言語として韓国語どうですか?』  
『身近な生き物の見分け方』  
『どうして違うの?』  
アメリカ英語とイギリス英語』  
『ビブリオバトル』  
『中国の暗黙知』  
『電磁気学基礎の公式導出』  
『無機化学&量子化学 勉強会 第2弾』  
『ドイツの日常・楽しみ方のススメ』  
『音楽でひろがる知識』

発行 2019年 1月 1日  
作成 学修支援部門 メディア教育担当 (松原、福岡、十二村、小木曾、能島、浅野)  
学生スタッフ 杉本佐和 (応用生物科学部 1年)  
協力 道下幹也 (自然科学技術研究科 2年) 小山凌太 (自然科学技術研究科 2年)  
問い合わせ先 全学共通教育事務室学修指導係 田草川 (058-293-2167)